【漁況】
[マアジ]

1．漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は，昭和40年の53万トンをピークに減少傾向となり，昭和55年には5万4千トンとなりました。その後増加傾向に転じ，平成8年には33万トンに増加し，平成10年までは30トン台で推移しました。しかし，平成11年には大きく減少し21万1千トンとなり，平成14年は19万2千トン，平成15年は21万4千トンでした。

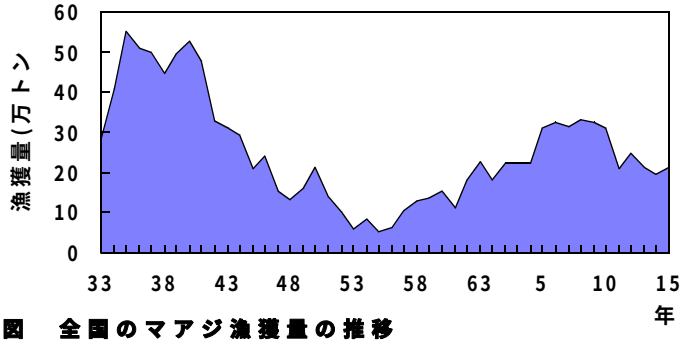


図　全国のマアジ漁獲量の推移

2．平成16年7～9月期の漁況の経過

【４港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦)】

北薩海域では，長島沖～串木野沖及び甑東(7～9月)に，薩南海域では，佐多沖(7～9月)及び内之浦沖（9月）に漁場が形成されました。

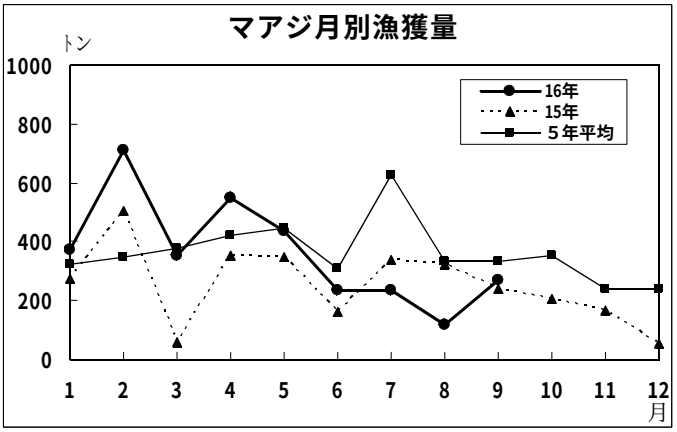
４港計では，アジ仔・豆アジ(平成16年生まれ)主体に，中・小アジ（１・２歳魚）もまとまって漁獲された。全体で623トンの水揚げで，前年の69%及び平年の48%でした。

3．平成16年10～12月期の見とおし

漁獲の主体は，アジ仔・豆アジ(0歳魚・平成16年生まれ）で，中・小アジ（１・２歳魚）もまとまって漁獲されるでしょう。来遊量は前年を上回り，平年並みでしょう。

（根　拠）

主対象となるマア仔・豆アジ(0歳漁)の来遊量は，前年を上回る水準と考えられます。



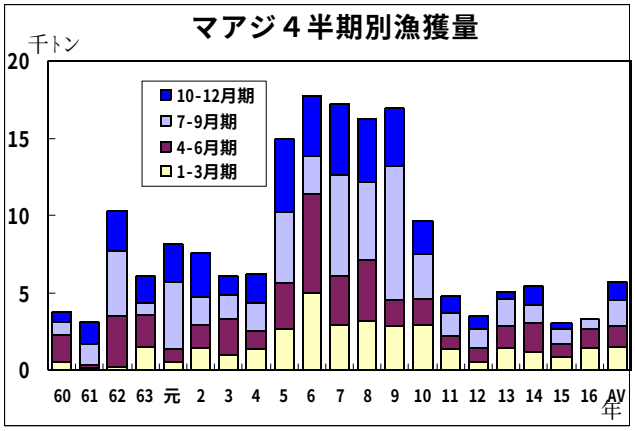


図 マアジ漁獲量変化(４港計)

※平年値は過去5年（平成11～15年）の平均値，平成16年9月29日現在の水揚量を使用。

[サバ類]

1．漁獲量の動向（農林統計）

サバ類の漁獲量は，昭和53年の160万トンをピークにマサバ資源水準の低下により年々減少し，昭和57年には72万トンとなりました。その後は，ゴマサバの増加により大幅な漁獲量の減少は見られませんでしたが，昭和63年以降はゴマサバの資源水準も低下したため，サバ類の漁獲量は大きく減少し，平成3年には26万トンとなりました。平成9年には84万9千トンと増加しましたが，その後再び減少し，平成14年は27万9千トン，平成15年は34万4千トンでした。

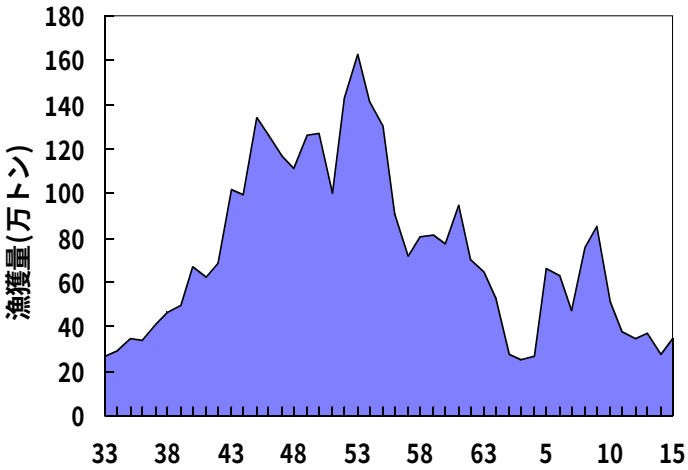


図　全国のサバ類漁獲量の推移

2．平成16年7～9月期の漁況の経過

【４港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦)】

主に薩南海域で漁獲があり，ゴマサバ中（２歳以上）が馬毛島沖(7月)，ゴマサバ(0歳魚・平成16年生まれ)が宇治・種子島東(8～9月)に漁場が形成されました。

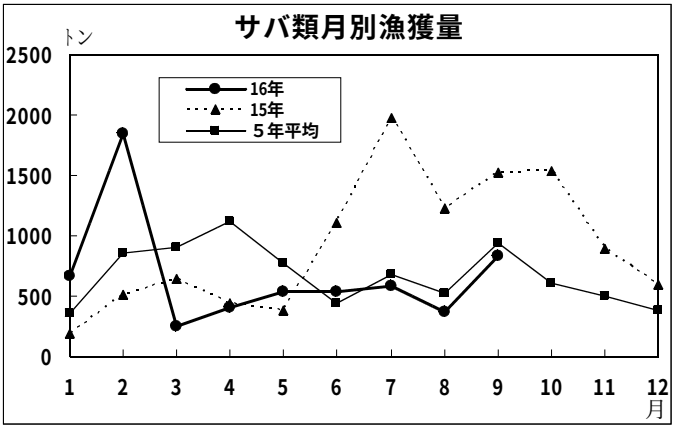
４港計では，ゴマサバ豆(0歳魚)主体に1,800トンの水揚げで，前年の38%及び平年の84%でした。

3．平成16年10～12月期の見とおし

漁獲の主体は，ゴマサバ豆・小(0歳魚・平成16年生まれ)で，来遊量は好調であった前年を下回り，平年を上回るでしょう。

（根　拠）

主対象となるゴマサバ豆・小(0歳魚)は，来遊量が前年・平年を上回る高水準であります。一方，前年に来遊量の多かったゴマサバ中(1歳魚)は低水準であります。全体としては，好調であった前年を下回るものの，平年を上回ると考えられます。



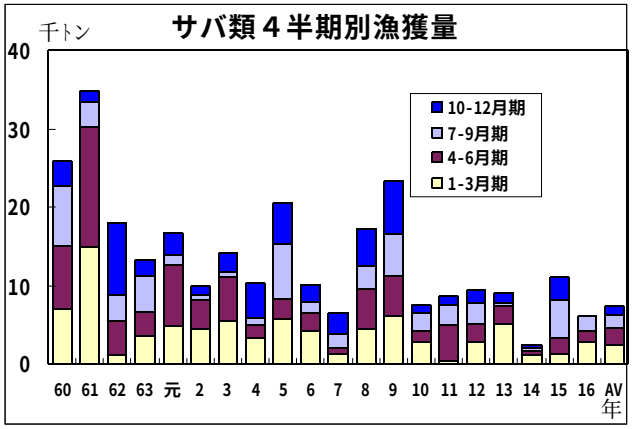


図 サバ類漁獲量変化(４港計)

※平年値は過去5年（平成11～15年）の平均値，平成16年9月29日現在の水揚量を使用。

［マイワシ］

1．漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は，昭和30年代から40年代にかけての不漁期の後，昭和48年頃から増加の傾向が見られ，昭和63年には449万トンまで増加しました。

しかし，平成元年から三陸沖を中心に漁獲量が減少し始め，その後もマイワシの若齢魚の減少等により，全国的に漁獲量は減少を続け，平成7年には66万トン，平成10年は16万7千トンとなりました。平成11年は35万1千トンとやや増加したものの，その後減少し平成15年は5万8千トンでした。

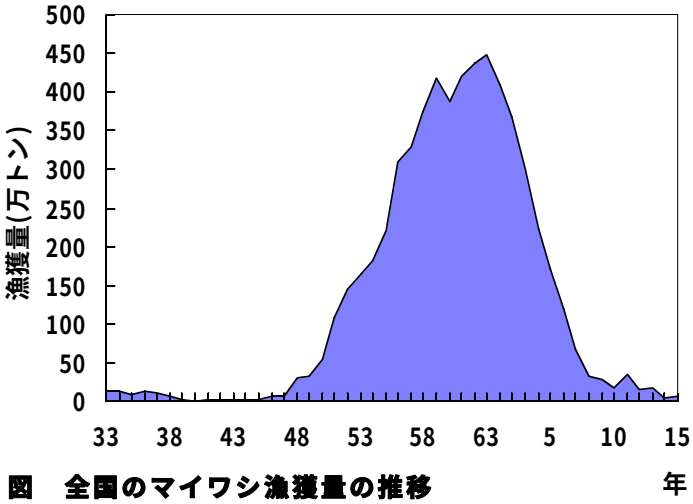


図　全国のマイワシ漁獲量の推移

2．平成16年7～9月期の漁況の経過

【４港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦)】

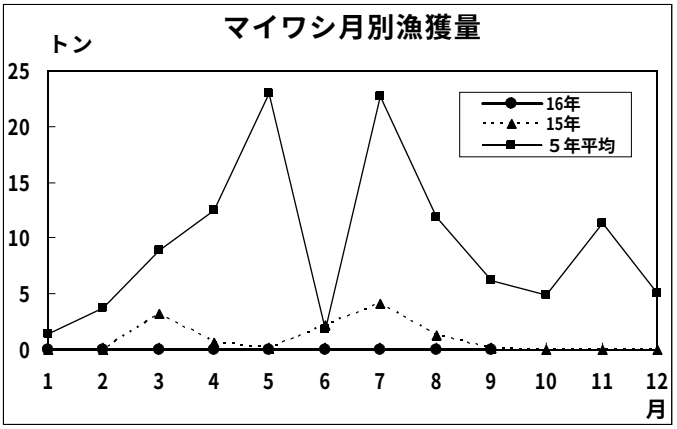
期間中まとまった漁獲はありませんでした。

3．平成16年10～12月期の見とおし

来遊量は前年並みで，まとまった漁獲は期待できないでしょう。

（根　拠）

マイワシの資源状態は全国的に低水準にあり，前期の漁獲状況や平成16年3月に行った卵稚仔調査からも資源回復の兆候はみられませんでした。



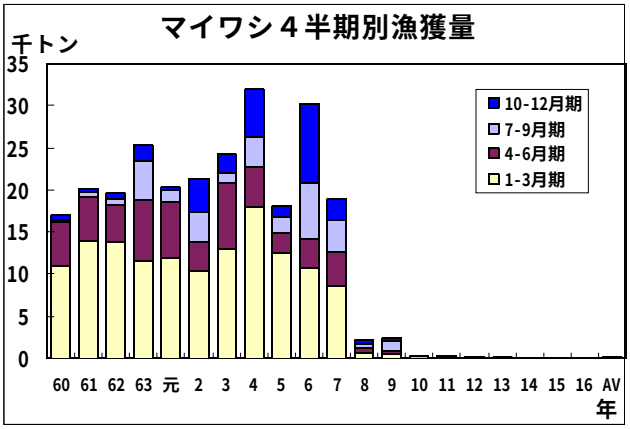


図 マイワシまき網漁獲量変化(４港計)

※平年値は過去5年（平成11～15年）の平均値，平成16年9月末までの水揚量を使用。

[ウルメイワシ]

1．漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は，昭和30年代後半から40年代前半にかけて3万トン前後で推移していましたが，昭和46年から54年まで5万トン前後で推移しました。昭和55年以降，漁獲量は減少し昭和60年には3万トンとなりましたが，その後，増減を繰り返しながら，増加傾向を示し，平成6年に6万8千トンとなりました。近年では再び減少傾向に転じ，平成9年は5万5千トン，平成15年は3万トンでした。

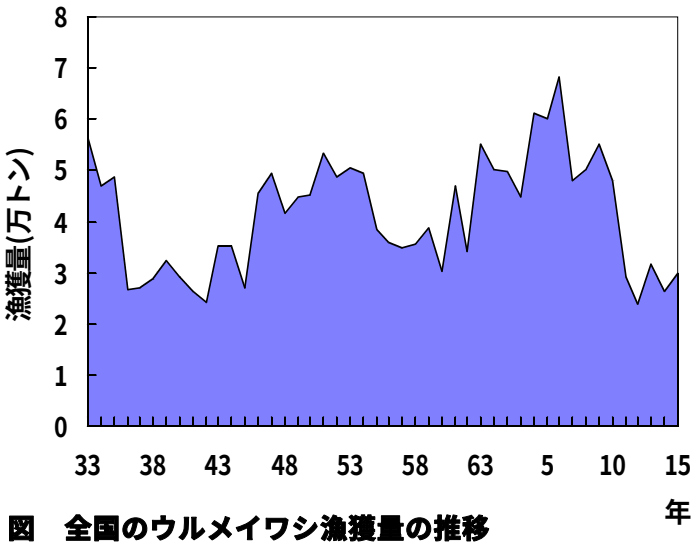


図　全国のウルメイワシ漁獲量の推移

2．平成16年7～9月期の漁況の経過

【４港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦)】

串木野沖で7～8月に甑沖で，8～9月に内之浦から佐多沖にかけて中～大羽（0歳魚，H16生まれ）を主体とした漁場が形成されました。

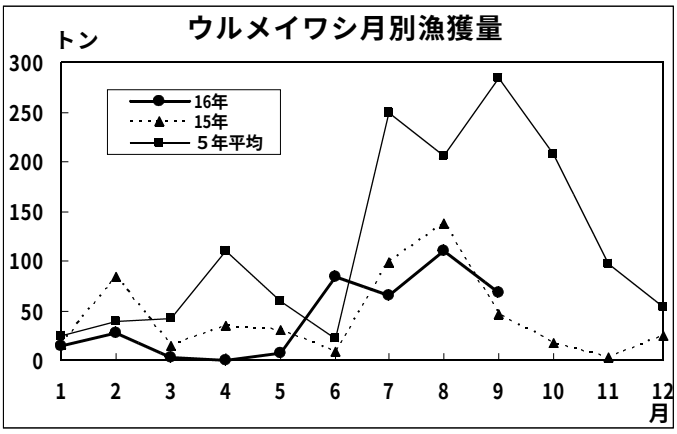
まき網４港計及び棒受網の合計では，679.4トンの水揚げで，前年の72%及び平年の55%でした。

3．平成16年10～12月期の見とおし

漁獲の主体は中～大羽ウルメ(0歳魚・平成16年生まれ)で，来遊量は前年を上回り，平年を下回るでしょう。

（根　拠）

薩南海域では前期に棒受網，まき網で低調だった前年を上回る水揚げがありましたが，好調だった平成10年以前の水準には至っていません。北薩海域では，9月下旬以降まとまった漁獲はありません。



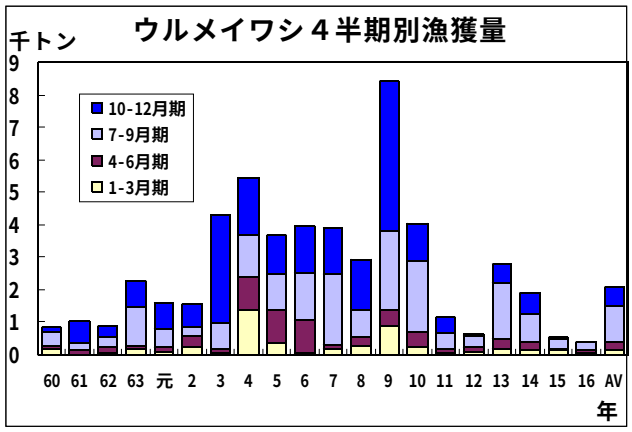


図 ウルメイワシまき網漁獲量変化(４港計)

※平年値は過去5年（平成11～15年）の平均値，平成16年9月末までの水揚量を使用。

[カタクチイワシ]

1．漁獲量の動向（農林統計）

カタクチイワシの漁獲量は，昭和48年まで30万トン台で変動していましたが，昭和49年以降減少傾向となり昭和54年には13万トンとなりました。その後，徐々に漁獲量は増加し昭和59年には22万トンとなりましたが，昭和62年には再び14万トンまで減少しました。昭和63年以降は大きく増減を繰り返し平成9年は23万3千トン，平成11年は48万トンとなりました。平成13年は，30万トンと一時的に減少したが，平成14年は再び増加し44万トン，平成15年は過去最高の51万7千トンでした。

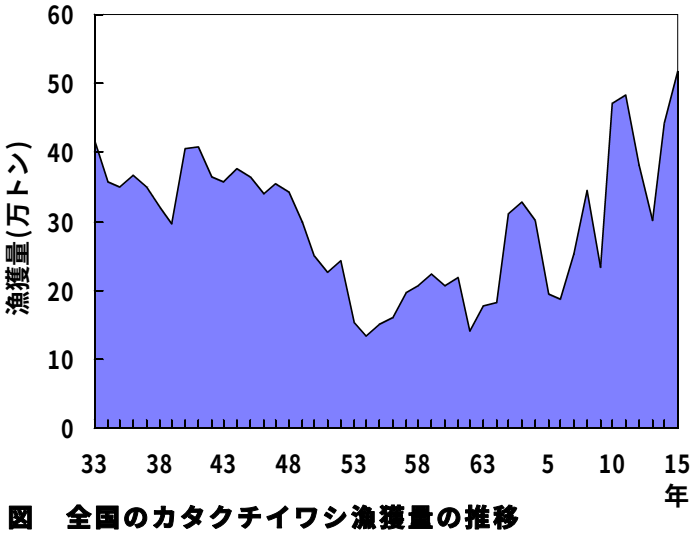


図　全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

2．平成16年7～9月期の漁況の経過

【４港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）のまき網及び棒受網】

前期に引き続き阿久根・長島沖を中心に小中羽（0歳魚，H16年生まれ）主体の漁場が形成されました。

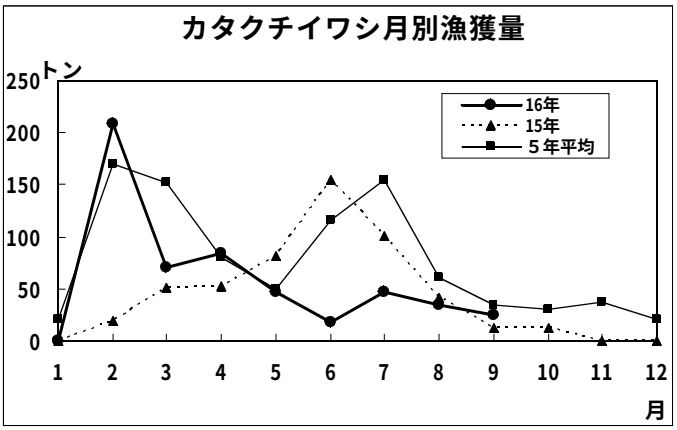
まき網４港計及び棒受網の合計では，234トンの水揚げで，前年の75%及び平年の59%でした。

3．平成16年10～12月期の見とおし

漁獲の主体は小中羽カタクチ(0歳魚・平成16年生まれ)で，来遊量は前年を上回り，平年並でしょう。

（根　拠）

バッチ網漁業の前期漁況から主対象となる小中羽カタクチ(0歳魚・平成16年生まれ)の発生状況は，前年を上回ると考えられます。



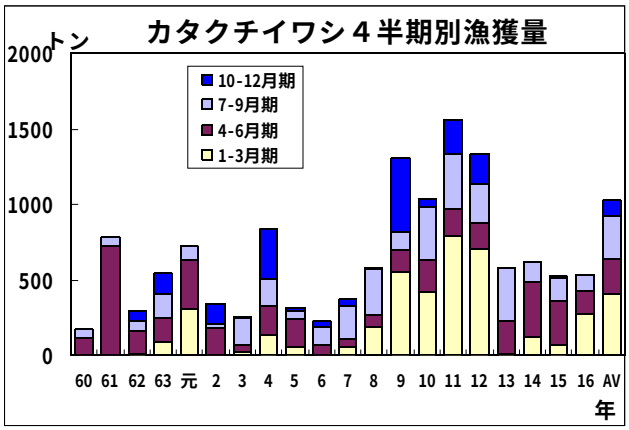


図 カタクチイワシまき網漁獲量変化(４港計)

※平年値は過去5年（平成11～15年）の平均値，平成16年6月末までの水揚量を使用。

[その他の魚種]

〈ムロアジ類（４港計)〉

1．経年変化及び平成16年7～9月期の漁況の経過

ムロアジ類の漁獲量は，平成2年の21,700トンをピークに減少傾向を示し，平成12年は，昭和58年以降最低の1,819トンとなりました。平成13年以降は増加し，平成13年は3,224トン，平成14年は4,418トン，平成15年は3,369ﾄﾝとなりました。

平成16年7～9月は，主に薩南海域で漁獲があり，期全体では362トンの水揚げで前年の70%及び平年の81%でした。

2．平成16年10～12月期の見とおし

来遊量は前年を上回り，平年並みでしょう。

〈オアカムロ（４港計)〉

1．経年変化及び平成16年7～9月期の漁況の経過

オアカムロの漁獲量は，平成元年の5,300トンをピークに減少し，平成6年には1,823トンとなりましたが，その後は増加傾向となり，平成10年は3,413トンでした。その後減少傾向となり，平成12年は2,483トン，平成13年は2,337トン，平成14年は1,885トン,平成15年は1,225トンでした。

平成16年7～9月は，主に薩南海域で漁獲があり，期全体では261トンの水揚げで，前年の49%及び平年の58%でした。

2．平成16年10～12月期の見とおし

来遊量は前年を上回り，平年を下回るでしょう。

〈マルアジ（アオアジ）（４港計)〉

1．経年変化及び平成16年7～9月期の漁況の経過

マルアジの漁獲量は，平成2年以降低調に推移しましたが，平成7年には1,430トンに増加しましたが，再び減少し平成11年は639トンでした。平成12年以降は増加傾向を示し，平成12年は1,867トン，平成13年は1,603トン，平成14年は2,712トン，平成15年は3,150トンでした。

平成16年7～9月は，主に北薩海域で漁獲があり，期全体では46トンの水揚げで，前年の24%及び平年の19%でした。

2．平成16年10～12月期の見とおし

漁獲の主体は，中（2歳以上）及び豆(0歳魚)となるでしょう。

来遊量は前年・平年を下回るでしょう。

（根拠）

マルアジ小(1歳魚・平成15年産まれ)の来遊量が低水準であり，マルアジ豆(0歳魚・平成16年生まれ)の来遊も現在のところ低水準で推移していますので，今期の漁況は低調に推移すると考えられます。

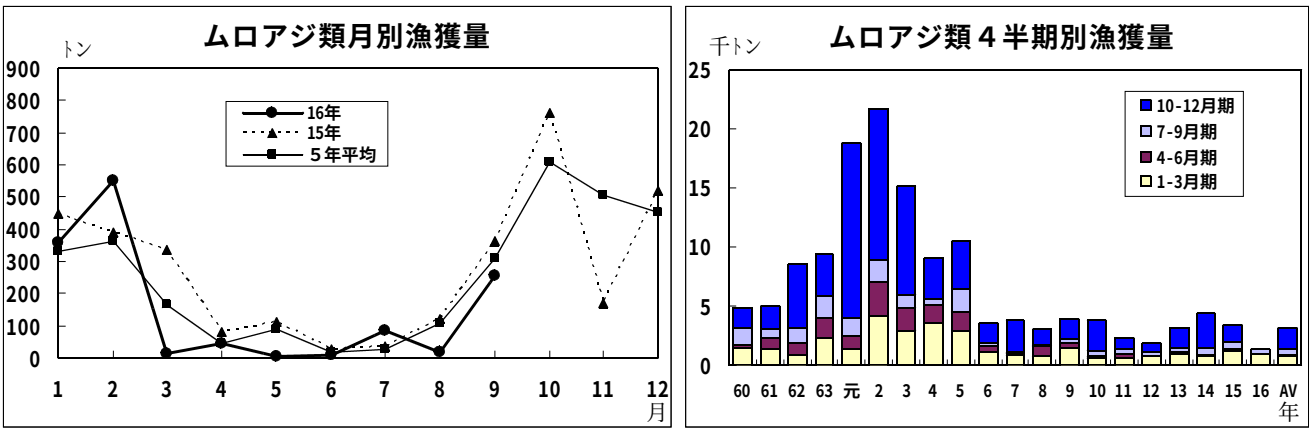


図 ムロアジ類漁獲量変化(４港計)

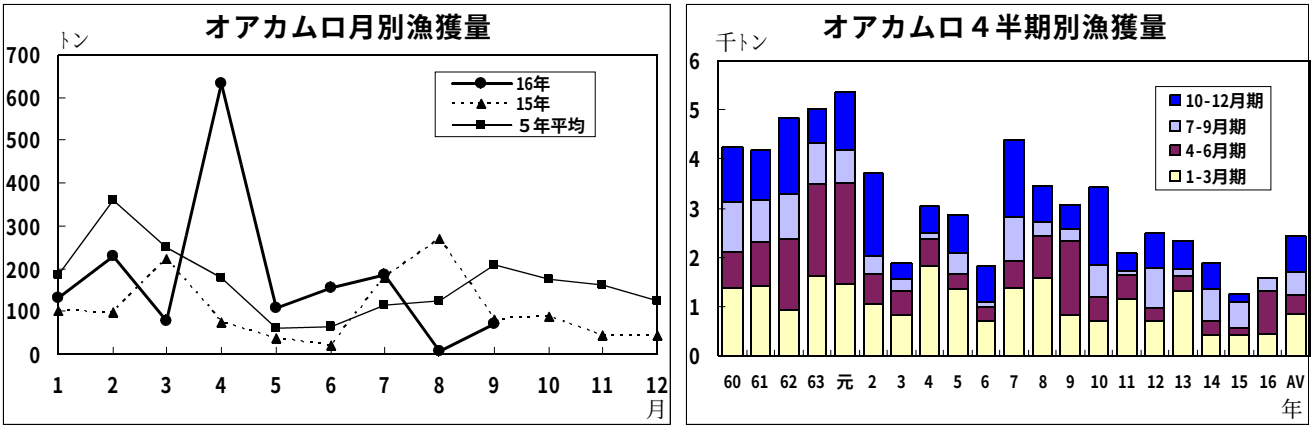


図 オアカムロ漁獲量変化(４港計)

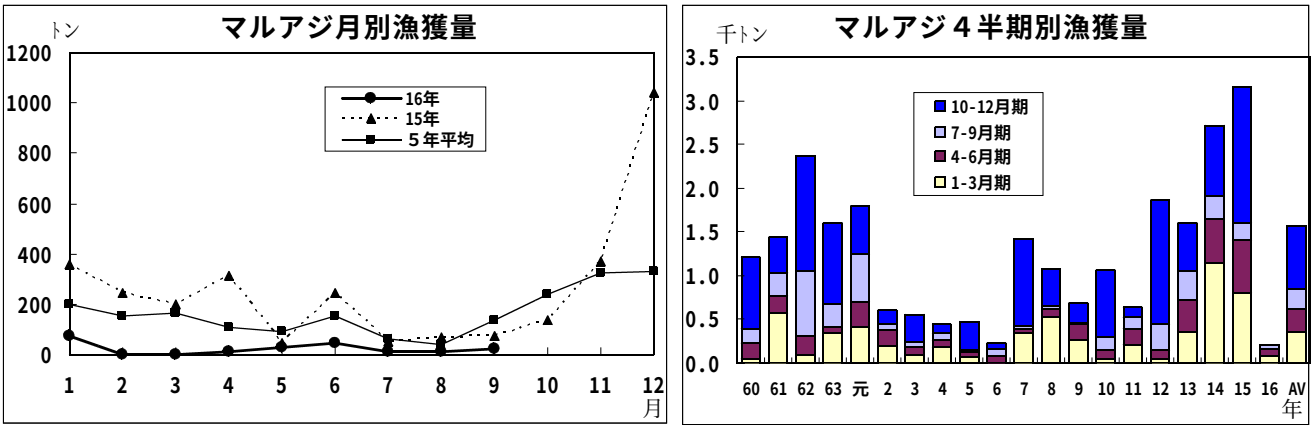
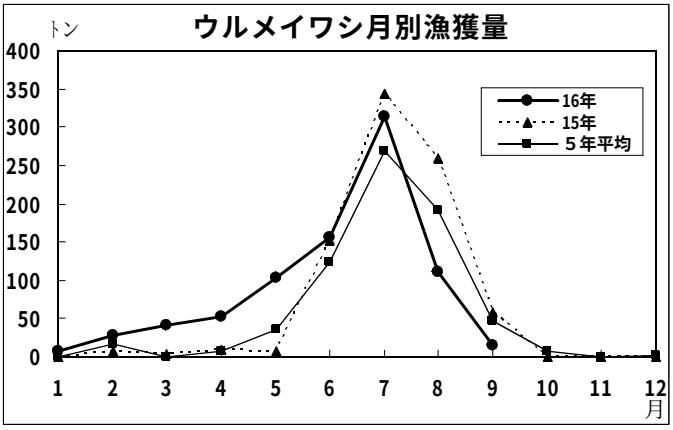


図 マルアジ（アオアジ）漁獲量変化(４港計)

※平年値は過去5年（平成11～15年）の平均値，平成16年9月29日現在の水揚量を使用。



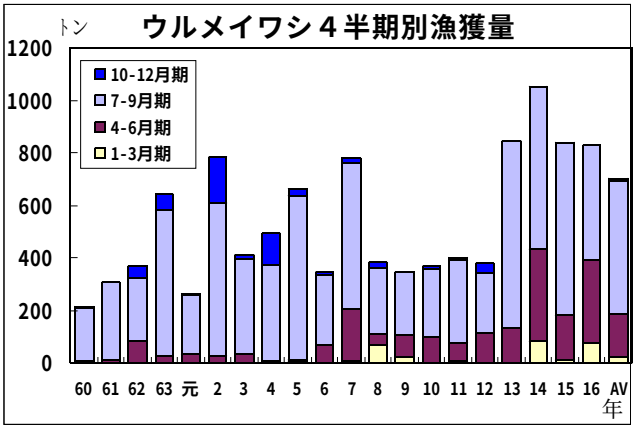
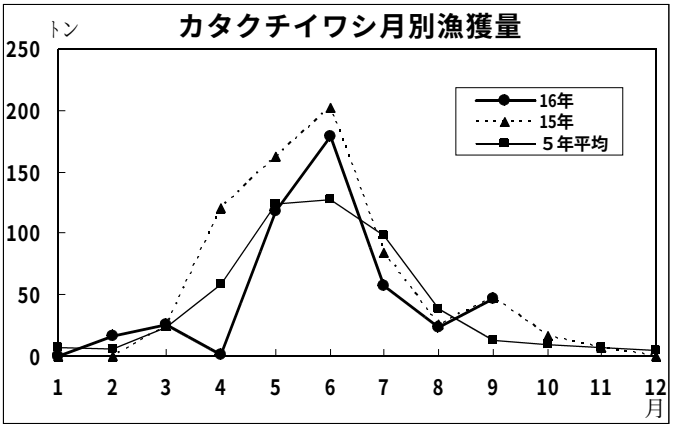


図 ウルメイワシ敷網漁獲量変化(阿久根港)



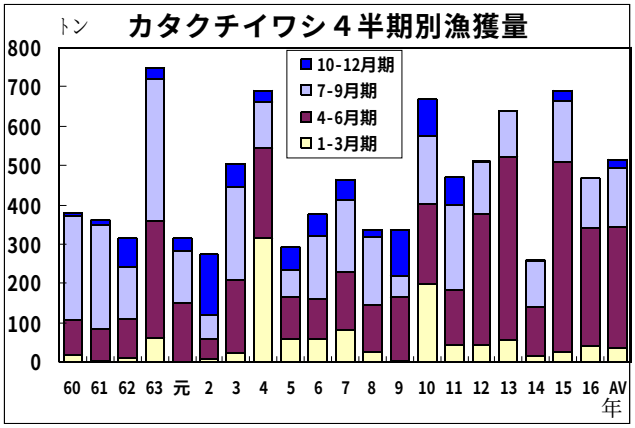
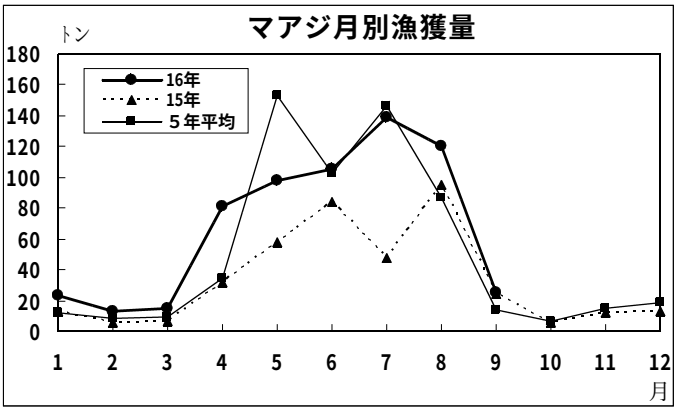


図 カタクチイワシ敷網漁獲量変化(阿久根港)



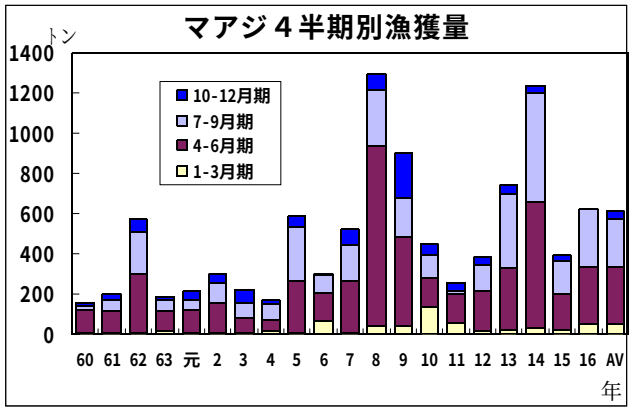


図 マアジ定置網漁獲量変化(内之浦港)

※平年値は過去5年（平成11～15年）の平均値，平成16年9月29日現在の水揚量を使用。